

ここ君と私の時間

東京文京学習センター

玉田 啓子

ここ君は、広汎性発達障害児です。

ここ君は、とてもゆっくりとした時間の流れで成長しています。

ここ君が、楽しい・うれしい・悲しい・怒るなどの表情を出してくれたのが、1歳過ぎてからでした。

ここ君が、言葉を喋れるようになったのは、2歳半を過ぎた頃でした。

ここ君の成長が遅いのは、男の子だから…と置いていましたが、何かが他の子どもと違うと私の頭の片隅にずっと引っかかっていました。

ここ君が、2歳終わり頃、意を決して育児相談の場の戸を叩きました。

ここ君は、発達障害だと言われました。

私のお腹の中で、何かいけない事があったのか？

ちゃんと、普通の子として産んであげられなくてごめんね。

私は、自責の念でいっぱいになり、毎日泣いてばかりいました。

泣いてばかりいる私に、ここ君は、小さな手を差し出して、いつも「大丈夫？」と、心配してくれました。

ここ君の心配そうな顔を見て、このままではいけないんだ…と思いました。

ここ君が自立していくためには、何が必要なのか？

何もわからない手探りの中、やっと見つけたのが医療機関では児童精神科、発達面での手助けには療育でした。

児童精神科の受診には3ヶ月待ち。

療育にいたっては、1年待ちました。

そんな日々の中、ここ君と一緒にいった図書館で放送大学のポスターを目にしました。慌しいの生活の中で、こんな私でもここ君の障害について勉強が出来る事に嬉しさを感じました。

ここ君は、大の偏食です。ご飯にお塩をかけたものと牛乳しか食べません。

他の物を食べさせても吐き出してしまいます。

ここ君は、味覚障害でもありました。

そんなここ君は、身体が弱く、すぐに体調を壊してしまいます。

風邪を引いても、粉薬を飲むことができませんでした。ドライシロップの味が苦手で、頑張っても飲んでもらっても吐いてしまうのです。

あまりにも吐きすぎて、脱水症状になってしまうのも度々でした。

風邪は、ほとんどが自然治癒という形で、完治に時間がかかりました。

ここ君は、人がいっぱいいるところが嫌いです。

そんなここ君を、同年代の子ども達と接した方がいいと思い、3歳から保育園に通園させています。

通いだした頃は、ストレスからくる蕁麻疹が多発。

毎週、月曜日には原因不明の熱を出し保育園を休む事が続きました。

ここ君は、保育園ではお気に入りの場所があり、いつも同じ場所で、朝から私が迎えに来るまで、お気に入りの場所で、お気に入りのパズルをずっとやっていました。

そんな生活が、1年半続きました。

ここ君は、5歳になっていきなり成長しました。

お友達と一緒にブロック遊び、怪獣ごっこ、簡単なルールのある遊びが出来るようになりました。

保育園の給食を通して、食べ物への興味が出てきたのか少しではあるものの食べられる物が増えてきました。

みんなより遅れた成長だけれど、ここ君が、大きくなった証でした。

ここ君は、6歳になり年長さんになりました。

年長さんになっても、出来ないことが沢山あります。

箸を持って、ご飯を食べる事が難しく、ホークとスプーンでご飯を食べます。

靴の左右がわからず、いつも左右逆に履いてしまいます。

夜のオムツが取ることが出来ません。

ブランコをこげません…

出来ないことをあげれば、山積みです。

ここ君は、みんなが、一歩進めば半歩しか進めません。

何でも、みんなの倍以上の時間がかかります。

でも、ある日突然出来なかったことが、出来るようになっていくのです。

ここ君は、みんなとは同じには進めないけれど、一歩一歩確実に大きく成長していま

す。

私とここ君の時間は、始まったばかりです。

これから、色々な事が起きるでしょう。

楽しさも、辛さも、共に分かち合い、確実に一步一步前に進んで行こう。

ここ君の目先の夢は、

- ・一人で公園に遊びに行くこと
- ・一人で、お買い物に行くこと

この夢は、近々叶いそうです。

ひとつの夢が叶ったら、また、次の夢へと、ここ君と私の時間は続くのです。

そして、毎日が学びの場なのです。